



〈11月1日から第3回トキ放鳥 来春のひな誕生に期待〉

○第3回トキ放鳥

11月1日(月)から30日(火)まで、野生復帰ステーション順化ケージにおいて、オス8羽、メス6羽のトキを放鳥します。順化ケージから直接トキが野外に出て行くソフトリリース方式により放鳥され、放鳥口は日中開放し、夜間は閉鎖します。12月以降は、ケージ内にトキが残っている場合でも放鳥口を閉鎖し、第3回放鳥を終了します。

今回の放鳥に向けての順化訓練では、環境省職員がケージ内に入る回数を増やし、農作業車を想定して軽トラックを訓練ケージ周辺まで近づけるなど、人や車に慣れさせる工夫がなされています。



また、10月5日に開催された環境省の「第14回トキ野生復帰専門家会合」では、今後の放鳥計画や放鳥トキの様子につい

て、各部門の専門委員による検証、検討が行われました。

○第4回トキ放鳥

放鳥候補個体は20羽とし、第3回放鳥に引き続き野生復帰ステーション順化ケージからのソフトリリース方式により放鳥する予定です。放鳥の時期については、第3回放鳥の結果を検討した後、決定されます。

来年以降の放鳥については、春と秋の年2回、各20羽の計40羽を放鳥する方針です。

○放鳥トキの様子

佐渡島内では、6月頃から群れを形成し始め最大14羽で行動しているのが確認されています。9月に入り、稲刈りが始まるとトキの群れが少しずつ大きくなっているようです。

10月15日現在、本州では新潟市内で1羽、富山県内で1羽確認されています。

◆市役所農林水産課生物多様性推進室トキ政策係(第2庁舎)

☎63-3761



世界遺産登録に向けて

世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
 世界の中で佐渡だけの価値を、自分たちの遺産として

10月17日、あいかわ開発総合センターで、世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を開催しました。

まず、国際産業遺産保存委員会の理事で鉱山部会長を務めるイギリスのマイルズ・オグリソープ博士が「佐渡金銀山の産業遺産としての評価」と題し基調講演を行いました。博士からは、事前の金銀山視察を踏まえ、佐渡には世界的価値を持つ素晴らしい産業遺産があるので、地元の方々はぜひ誇りに思ってもらいたいとの指摘がありました。

続いて、お茶の水女子大学大学院の小風秀雅教授、筑波大学大学院の



稲葉信子教授、ゴールデン佐渡の澤邊一郎取締役社長、政策研究大学院大学の篠原修教授、文化庁文化財部記念物課の本中眞主任文化財調査官が加わり、「産業遺産」としての佐渡金銀山の価値と今後の整備・活用」と題しパネルディスカッションを行いました。

前日の講演会・音楽会「佐渡鉱山 秋の夕べ」や、当日午前の近代化遺産等見学ウォークも好評で、参加者はかつての佐渡鉱山の繁栄に思いを馳せていました。

世界遺産登録支援事業

世界遺産暫定一覧表記載 記念パネル展

日時 11月19日(金)午前9時30分

11月23日(火・祝)午後2時

会場 東北電力新潟支店グリーンプラザ
 (新潟市中央区大川前通5番町84)

主催 佐渡を世界遺産にする会

後援 新潟県教育委員会・佐渡市

☆ミニ講座・佐渡芸能披露も予定しています。

◆佐渡金銀山講演会◆

講演 「佐渡鉱山に産出した金銀鉱石の特

徴」井澤英氏(九州大学名誉教授)他

日時 11月27日(土)午後1時~4時

会場 朱鷺メッセ中会議室301
 (新潟市中央区万代島)

主催 新潟県「佐渡金銀山」世界遺産登録推進議員連盟

申込み 県文化行政課

☎025-280-5726